



# バッハの森通信

第124号  
2014年  
7月20日発行

一般財団法人バッハの森

〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9 <http://www.bach.or.jp>

☎ 029-847-8696 / Fax 029-847-8699 e-mail : [info@bach.or.jp](mailto:info@bach.or.jp)

郵便振替 00380-4-16119 一般財団法人バッハの森

## 「知識」か「命」か 一番大切なものはどちらですか？

「エデンの園」の物語は、誰でも知っている有名なお話しです。幼いころは、昔話やおとぎ話の類いとして聞いていましたが、大人になって、この物語が語るいろいろな問題が徐々に分かってくると、何度読み返しても、本当は何を言おうとしているのか考えさせられてしまう、興味の尽きないお話しになりました。

\* \* \*

最近、私の興味をそそるテーマは、神がエデンの園の中央に植えた「命の木」と「善悪の知識の木」です。

神はアダムに言った。「どの木から実を取って食べてもいい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死ぬ」。その後で、神がアダムに与えた女を蛇が誘惑した。「食べても死なないよ。食べると目が開け、神のように善悪を知る者になることを神は知っているのさ」。そこで見ると、美味しそうで、見た目が良く、賢くなるのに魅力的なので、女は取って食べ、アダムに渡すと彼も食べた。後でそのことを知った神は怒り、人間を死すべき者とし、人間が命の木の实を食べて永遠に生きられないように楽園から追い出し、入り口に恐ろしい門番を置いて戻れないようにした。  
(創世記2章、3章)

先ず明らかなことは、人間が「命」より「知識」を選んだことです。「食べても死なないよ」という蛇の言葉に騙されたとしても、死んでもいい、と思わせるほど、「知識」は「美味で、美しく、賢くなるのに魅力的」だったのです。少なくとも3000年以上も昔の人が、寓話の形で、人間とはこういう存在だと語っていることに驚きます。同時に、何千年たっても、人間は本質的に変わらないことが分かります。

学名「ホモ・サピエンス」(賢明なヒト) が示すように、「知識」を持つ存在として、人間は自分を理解していません。実際、経済的発展に要求される「知識」の追求は、特に産業革命以来、驚くべき発見、技術革新となり、

今や加速度的なスピードで広がり続けています。遂には原子力利用、クローン技術、宇宙開発などを始めた人間は、まるで「神のように」なりつつあるように見えます。しかし、同時に、処理できない使用済み核燃料、地球規模の大気と土壌の汚染、温暖化が原因と思われる異常気象など、深刻な環境破壊の実態を知ると、知識の木の实を「食べると死ぬぞ」と警告した神の言葉が想い出されるのです。

\* \* \*

命令に背いて「知識の木の实」を食べて神の怒りがあったため、人間は絶対に楽園に戻れない、従って「命の木の实」を食べて永遠に生きることができない存在になった、とこの物語は語ります。ところが、これではハッピー・エンドにならない、と考える人たちが現われました。ナザレのイエスの教えと生き様に感動した彼の弟子たちです。彼らは、彼の死後、イエス・キリストが神の怒りを鎮めたことを信じる者は楽園に戻り、「永遠の命」を得ることができる、と言い出しました。こうして、「永遠の命」を得ることを目指す宗教として、キリスト教が成立しましたが、その神秘的な表現が誤解され、「永遠の命」は不老不死の願望と混同されるようになりました。

しかし「永遠の命」は、万能細胞の発明によって達成される命ではありません。「永遠の命」が意味することは、一番大切なものは「命」だ、という真理です。これは、30歳そこそこで刑死した青年の生き様が喚び起こした、比類のない感動から生じた悟りなのです。今更言われなくても、誰でも知っていることだ、と思いませんか。いいえ、人間は歴史を通じて「命」より「知識」を大切にしてきました。その結果、未だに世界中で殺し合い、地球を汚染して人類の生息を不可能にしようとしているのです。

当然、「永遠の命」は、教会音楽の中心的テーマです。この教会音楽をテーマにするバッハの森で、私たちは、教会とも宗教団体とも違うアプローチによって、「美味で、美しく、賢くなるのに魅力的」に見える「知識の木の实」とは違う、「命の木の实」の輝きに惹かれ、「命」の素晴らしさに感動した人々の歌を楽しんでいます。皆さんも参加なさいませんか、楽しいですよ。お待ちしております。(石田友雄)

## 憐れみ深い者になる 平和を祈る者の目標

\* 去る6月15日に開いたバッハの森コンサート「嘆きと祈りの歌」で朗読したメディタツィオの改稿です。

### 聖徒少なし

ああ、神よ、天より見わたしてください。  
そしてどうぞ憐れんでください。  
あなたの聖徒たちはいかに少数でしょうか。  
私たち貧しい者は見捨てられています。  
あなたの御言葉を人は真実とせず、  
信仰も全く消え失せています、  
すべての人の子らの許で。

このように、詩篇 12 篇に基づいて、ルターが作詞したコラールは歌い始めます。その後、世の人々は、神の言葉を見捨て、自分勝手に造り出した虚偽の教えで互いに争い、強い者には媚びへつらい、弱い者には大言壮語して、貧しい人々を苦しめていると続けます。そして、これらの邪悪な人々の支配に苦しむ者たちの嘆きを聞いた神が、彼らに救いの言葉を与える、と約束なさったから、忍耐強くその救いを待ち望めと勧め、最後に、邪悪な人々、神を恐れないやからが、自分たちの間に入り込まないように、と祈願して終わります。

### 歯切れが悪い詩篇歌

このコラール詩篇歌を通読してみると、何か歯切れの悪さを感じます。アモス、イザヤ、エレミヤなど、バビロン捕囚前に活動した有名な預言者たちは、腐敗した支配階級を厳しく糾弾すると、彼ら支配階級と共に、この国は必ず滅亡する、とためらいなく究極の神罰を宣言しました。詩篇 12 篇の詩人も、大言壮語して権力闘争を繰り返し、貧しい人々を苦しめる支配階級を、邪悪な人々、神を恐れないやから、と厳しく批判しますが、彼らに神罰を下してくださいとは祈りません。確かに、彼らの虚偽の教えを根絶してくださいと願いますが、そこまでです。他方、この詩篇の中で、苦しむ人々に救いの言葉を与えようと約束する神も、邪悪な支配階級を滅ぼすとは言いません。そこで、バビロン捕囚前の預言者たちの

発言と比較すると、どうしても歯切れの悪さを感じてしまうのです。

この歯切れの悪さは、詩篇 12 篇が詠まれた時代を反映していると思われます。紀元前 6 世紀後半に、約 50 年に及んだ捕囚から解放されてエルサレムに帰還し、廃墟と化していた神殿を再建した人々は、エルサレム神殿を中心とする新しい共同体を形成しました。ユダヤ人です。この詩篇詩人は、その後継者として、多分、紀元前 5 世紀頃、神殿に仕えていた人だったと考えられます。

当然、この詩人には、ほんの数世代前の先祖が、廃墟から再建したエルサレム神殿を中心とする神聖な共同体を、維持・継続していくことが最も大切な願いでした。バビロン捕囚という民族絶滅の危機に直面した苦い記憶が、まだ生々しく語り伝えられていた時代です。「バビロンの河の岸辺でシオンを想って私たちは泣いた」という詩篇も、この頃詠まれた歌でしょう。ですから、いくら支配階級が邪悪な人々であっても、かつての預言者たちのように、エルサレム・ユダヤ人共同体の滅亡を預言することは出来なかったのです。

### ヘブライ語「ヘセド」(憐れみ)

では、どうしたら、この腐敗した共同体を正しい共同体に立て直すことができる、と詩人は考えていたのでしょうか。詩篇は「救ってください」「護ってください」と祈り、コラールはそれに加えて、神の救いの言葉を待ち望め、と勧めます。しかし、これだけでは、邪悪な支配者たちに代えて、どのような共同体の形成を目指していたのか分かりません。

実は、詩篇詩人とルターが目指していた正しい共同体は、彼らの最初の嘆きの言葉から学ぶことができるのです。詩篇は、「敬虔な者は絶えました」、コラールは、「あなたの聖徒たちはいかに少数でしょうか」と嘆きます。ということは、「敬虔な者」、或いは「聖徒たち」が大勢いる社会こそ、彼らが目指していた正しい共同体なのです。

そこで、彼らの真意を理解するために、「敬虔な者」、或いは「聖徒たち」と翻訳された言葉が、本来、何を意味していたかを知るために、この訳語の原語であるヘブライ語「ハスイード」の意味を確かめる必要があります。そこで更に「ハスイード」の語源を探すと、「ヘセド」という言葉に到達します。「ヘセド」

は、一般に「慈しみ」、或いは「憐れみ」と訳される言葉で、例えば、「主に感謝せよ、そのヘセド（憐れみ）は永遠に」（詩篇 106 篇）というように、もっぱら「神の憐れみ」を表現する言葉として用いられています。

### 憐れみ深い者

ですから、正しい共同体の構成員として、詩篇詩人が考えた「ハスイード」は「敬虔な者」より「憐れみ深い者」と訳した方が適切ではないでしょうか。そうすれば、彼がナザレのイエスの教えと同じことを考えていたことが分かります。「お前たちの天の父が憐れみ深いように、お前たちも憐れみ深い者になれ」（ルカによる福音書 6 章）とイエスは教えました。これは、彼が地上に実現しようと熱心に活動していた「神の王国」、乃至は「天の王国」の原理です。私たち一人一人が、神と同じように「憐れみ深い者」になれば、自ずとそこに神の王国は成り立っている、という教えです。

その後の歴史の中で、「ハスイード」は、しばしば宗教的信念から過激な行動をとる人々の呼び名になりました。例えば、紀元前 2 世紀に、ギリシャ様式の生活と宗教をユダヤ人に強要したセレウコス朝の支配者に、自分の信仰に忠実なユダヤ人たちが武器をとって立ち上がりました。マカバイ反乱です。約 30 年に及んだ武装闘争の後、ユダヤ人は勝利しました。この反乱者たちが、「ハスイード」、複数形で「ハスイディーム」と呼ばれ、一般に「敬虔な者」「敬虔主義者」と訳されています。

しかし、詩篇 12 篇の詩人が目指した正しい人は、同じ「ハスイード」でも、過激派ではありません。だから「敬虔な者」とは訳せません。彼の歯切れが悪い発言は、他人を批判するだけではなく、自分自身が「憐れみ深い者」になることが、正しい共同体を形成する道だ、という信念の表現だったのです。

### 平和の祈り

これが、詩篇 12 篇とこの詩篇に基づくルターのコラール、そしてこのコラールに見事な音楽的表現を与えたバッハのカンタータのメッセージであると考えられます。しかしこれではまだ完結していません。どうすれば天の父と同じような「憐れみ深い者」になれるのか、という重大な問題が残っています。キリスト教徒は、その答えを、ミサ通常文の最後に歌

う「アニュス・デイ」、すなわち「神の小羊よ」にあると考えました。

神の小羊よ（アニュス・デイ）、  
あなたは世の罪を取り除く方、  
私たちを憐れんでください。

.....

神の小羊よ、  
あなたは世の罪を取り除く方、  
私たちに平和を与えてください。

勿論、「神の小羊」は、イエス・キリストを指し、キリストは神に他なりません。問題は、「憐れんでください」と「平和を与えてください」という切実な願いです。これは、神の憐れみなしには、何も始まらないという理解に基づき、心から「平和」を願う祈りです。何を祈っても「平和」を願ったら、いくら支配階級が邪悪な人々であったとしても、彼らの滅亡を目指す武装闘争は始めない、ということです。

確かに、歯切れの悪い祈りです。しかし、これが「天の父と同じように憐れみ深い者になれ」と教えたイエスの姿勢であり、それを実行しようとしたため、彼は支配階級に抵抗しないまま、犠牲の小羊のように、十字架にかけられて殺されたと、イエスの弟子たちは説明しました。

これから私たちは、カンタータとコラール、そして「アニュス・デイ」まで歌います。ご一緒に「憐れみ深い者になる」とはどういうことか、考えてみませんか。イエスが命をかけて地上に実現しようとした「天の王国」が見えてくるかもしれません。

（石田友雄）

### 寄付者芳名（敬称略日付順）(2014.4.1～7.13)

次の方から計 142,937 円のご寄付をいただきました。  
比留間恵、永井香。

### 建物維持積立寄付（敬称略日付順）(2014.4.1～7.13)

次の方々から計 139,300 円のご寄付をいただきました。  
西澤節子、中西美江子、中原敏昭、本間真一、岩澤靖子、田中明彦・とみ子、正村寿満子、慶野多美子、西館弓子、村上晴美、本多美雄、丸山妙子、松岡智子、吉武佐紀子、三宅利子、南千津子、三縄肇・啓子、斉藤妙子、熊谷徹、浪川幸彦、青柳廣則、白川知預子、宮本耕一、神谷候子、本多谷雄・和子、吉原実智子。

## 数字に現れた バッハの森の危機

### 皆さんの参加で危機を克服しましょう

統計の数字は、決して実状を100パーセント伝えるものではありません。しかし、数字が実状を客観的に伝えていることも事実です。これから、バッハの森の昨年度の統計を、ご一緒に読んでみませんか。そうすると、敢えて「危機的」と言わざるをえない数字が見えて来ます。

どう「危機的」なのか、過去の統計と比較してみると更によく分かります。そこで、数字が余り動いていない最近数年ではなく、収支バランスがとれていた10年前（2003年度）の統計と、昨年度の統計を比較してみます。なお、バッハの森の年度統計は、毎年『バッハの森通信』7月号に発表されています。

まず会員数、プログラム数、それに参加者の人数を比較します。

	2003年度	2013年度	減少
会員数：	213人	130人	83人
プログラム数：	19	16*	3
プログラム延べ回数：	370回	199回*	171回
参加延べ人数：	3510人	1793人*	1717人
1回当たり出席者数			
クワイア：	約20人	約14人	約6人
コンサート：	約58人	約36人	約22人

\*統計数字から「オルガン・クラヴィコード・チェンバロの個人練習」は除外されています。

御覧のとおり、合唱、研究会などのプログラム数とその種類は10年前と余り変わっていませんが、会員が80人以上、プログラム延べ回数とその参加者数は大幅に減少しました。

次に、会員数と参加者数の減少が、収入と支出にどのように反映したかを考察しますが、その前に、バッハの森の会計が、経常収支と指定寄付収支の2本立であることを説明しておきます。経常収支は、年会費、研究会費、一般寄付などの収入と、事務費、光熱水費などの支出で、通常の活動にかかる費用の収支です。

他方、指定寄付収支には、1)土地地上権、2)建物の修理と外壁塗装、3)オルガン修復の3項目あります。20年ごとに更新する地上権の更新費は、今から10年後に244万円必要です。建物の外壁塗装は、理想的には、毎年1棟ずつ6年間で全6棟するため、毎年平均100万円必要です。しかし、最近では毎年できるほど寄付が集まらないので、定期的な塗装が難しくなっています。オルガンの修復については、震災による大破の修復は一応終わりましたが、これから何年おきにいくらかかるか、問い合わせ中です。

経常収支	2003年度	2013年度	減少
収入			
年会費：	132万円	92万円	40万円
事業収入：	475万円	351万円	124万円
一般寄付：	120万円	52万円	68万円
雑収入：	178万円	121万円	57万円
合計：	905万円	616万円	289万円
支出（管理費と事業費）			
：	824万円	692万円	133万円
収支差額：	81万円	△76万円	

10年前と昨年度の経常収支を比較すると、会員数とプログラムの参加延べ人数の減少に応じて、当然収入は減少しました。しかし、寄付収入については、単純に68万円の減少とは言えません。昨年度はオルガン修復の第二次募金に219万円もの寄付があり、一般寄付と指定寄付を合算すると2003年度より150万円も多額の寄付総額になりました。これは現在の会員が、人数は少数になりましたが、熱心にバッハの森を応援してくださる証拠です。

ともかく、経常収支を比較すると、昨年度は支出を節約して、10年前より133万円減少させたにもかかわらず、10年前に81万円あった繰り越しが、昨年度は76万円の赤字になりました。この赤字を理事長からの借入金で補填した結果、10年前に3700万円だった借入金累計は、昨年度末に4100万円になりました。

以上、最初に申し上げたとおり、数字が「危機的」状況を示していることが分かっていただけだと思います。ではこの危機を克服するためには、どうしたらいいでしょうか。まず、収支のバランスがとれていた10年前に戻すことを目標に、プログラム参加者数を増やすため、皆さんがバッハの森に集まってくださることです。合唱に、研究会に、コンサートに、一人でも多くの方が参加してくだされば、参加人数に応じて収支は好転します。

それにしても、基本的な問題は、会員が130人に減少したことです。どうすれば、これを10年前の人数に戻すことができるでしょうか。会員減少の理由を分析し、人々のニーズに応える新しいプログラムを始めることでしょうか。この問題を語り合う機会として、昨年「バッハの森の運営を考える有志の会」を始めました。何とかご一緒に問題解決の道を見つけませんか。バッハの森は、皆さん一人一人の参加によって維持されている団体なのです。

(石田友雄・戸部慶子)

## 2013年度・統計

会員数 (2014.3.31)	入退会者数		
維持会員 85人	入会	退会	増減
賛助会員 45人	維持会員 10	10	0
計 130人	賛助会員 1	4	-3
	計 11	14	-3

## 集会回数

参加者延べ人数(2013. 4. 1～2014. 3. 31)

学習コース	回数	延人数
クワイア(混声合唱)	32	450
バロック・アンサンブル	9	35
ハンドベル・クワイア	30	117
オルガン音楽研究会	16	128
コーラル研究会	15	108
クラヴィコード・オルガン教室	18	65
オルガン・クラブ	10	28
入門講座:聖書を読む	27	143
オルガン・クラヴィコード・		
チェンバロ練習	383	383
クリスマス祝会	1	25
小計	541	1482

## 公開プログラム

コーラル・カンタータ研究	13	147
コーラルとカンタータ	16	196
コンサート	4	148
ワークショップ	2(5日)	79
特別練習	3	20
子どもクリスマス	1	43
音楽会(家族で楽しむ)	2	61
小計	41(5日)	694

## 運営活動

運営委員会	39	154
理事会	1	6
評議員会	1	8
有志懇談会	2	32
芝生・生け垣手入れ・大掃除	3	14
クリスマス飾り付け	1	6
オルガン修復作業	1(5日)	12
打ち合わせ	2	5
小計	50(5日)	237

## その他

オルガン講習会 (フェリス・オルガン科)	1(2日)	6
CD製作録音(明治学院)	1(3日)	50
取材	1(4日)	10
放送(ラジオ)	1	2
掲載(タウン紙)	1	
来訪	3	4
小計	8(9日)	72

総計 640回(19日) 2485人

## 会計報告(2013. 4. 1～2014. 3. 31)

### 経常収支

単位:千円

### 収入の部

基本財産受取利息	1
特定財産受取利息	1
年会費(維持・賛助会費)	919
事業収益	
1) 研究会(学習コース)	1,734

2) 公開講座	120
3) コンサート	225
4) ワークショップ	225
5) 賃料収益(家賃収入)	1,202
一般寄付金	518
雑収益(管理棟家賃、コピー代、楽器使用料)	
計	1,209
計	6,154

### 支出の部(建物維持、オルガン修復を除く)

給与手当	925
法定福利費	0
支払報酬(会計事務所)	899
旅費交通費	193
通信運搬費(郵送料、電話、ネット関係)	209
什器備品費	0
消耗品費(コピー用紙、文具他)	114
修繕費(楽器メンテ、植栽)	1,193
印刷製本費(バツハの森通信、封筒印刷)	90
光熱水料費	733
賃借費(地代、機器リース料)	1,170
火災保険料	123
諸謝金	765
租税公課(固定資産税、法人事業税)	252
負担金(振込手数料)	4
広告費	0
雑費(コピー使用料、クリーニング代)	245
計	6,915
当期経常増減額	△761

### 指定寄付収支

単位:千円

#### 収入の部

##### 土地地上権積立

前期繰越	931
寄付	6
利息	0
計	937

#### 支出の部

繰越	937
計	937

#### 建物維持・修理

前期繰越	403	建物塗装・修理	339
前年度分追加	168		
寄付	405		
利息	0	繰越	637
計	976	計	976

#### オルガン修復\*

前期繰越	125	予定分	1,546
寄付	2,193	繰越	772
計	2,318	計	2,318

\*支出の部の「予定分」は、『バツハの森通信』第123号(2014年4月20日発行)5頁に報告したとおり、すでに支払いました。

### 借入金(2014.3.31現在)

単位:千円

長期借入金	34,000
短期借入金(建物維持)	5,330
短期借入金(新法人移行他)	1,700
計	41,030

4. 10 初夏のシーズン開始  
4. 10, 17, 24 運営委員会 参加者各 4 名。  
5. 1, 8, 15, 22 運営委員会 参加者 4 名、4 名、4 名、3 名。  
5. 2 草苺り 2 名。  
来訪 木田いずみ氏 (オルガン練習室ベアータ)  
5. 3 ~ 5 教会音楽ワークショップ 参加者 11 名、11 名、9 名。  
6. 5, 12, 19, 26 運営委員会 参加者各 4 名。  
6. 13 チェンバロ調整講習会 参加者 6 名。  
6. 15 バッハの森コンサート 参加者 31 名。  
6. 21 バッハの森の運営を考える有志懇談会 参加者 9 名。  
一般財団法人バッハの森評議員会 参加者 6 名。  
一般財団法人バッハの森理事会 参加者 5 名。  
6. 29 特別音楽講習会 (フェリス女学院大学音楽部)  
来訪 蔵田雅之氏 (フェリス女学院大学教授)。  
7. 3 つくば市固定資産調査 小田倉純一氏 (資産税課主査)、塚本輝也氏 (資産税課調査員)。  
7. 3, 10 運営委員会 参加者各 4 名。  
7. 13 チェンバロ調整講習会 参加者 6 名。

## J. S. バッハの音楽鑑賞シリーズ

### コラール・カンタータ研究

### コラールとカンタータ (JSB)

4. 12 パルマルムのカンタータ「天の王よ、歓迎いたします」(BWV 182) ; コラール「主の苦しみと痛みと死は」。オルガン: J. S. バッハ「イエスよ、あなたの御苦しみは」(BWV 159 / 5)、當眞容子。参加者 8 名。  
4. 19 第 370 回、オルガン: J. G. ヴァルター「イエスの受難と痛みと死は」、安西文子。参加者 11 名。  
4. 26 第 371 回、復活祭第 3 祝日のためのカンタータ「私は生きる、私の心よ、お前の楽しみのために」(BWV 145) ; コラール「輝くこの日を」。オルガン: J. S. バッハ「素晴らしい日が現れた」(BWV 629)、笠間きよ子。参加者 11 名。  
5. 10 カンタータのためのカンタータ「私がかなたへ行くことは、お前たちに良いことだ」(BWV 108) ; コラール「父よ、なが聖霊」。オルガン: J. S. バッハ「神が天より与えてくださるあなたの聖霊」(BWV 108 / 6)、金谷尚美。参加者 11 名。  
5. 17 第 372 回、顕現祭後第 4 主日のためのカンタータ「神が、この時、私たちと共におられなければ」(BWV 14) ; コラール「御神この時に」。オルガン: J. G. ヴァルター「神が、この時、私たちと共におられなければ」、金谷尚美。参加者 15 名。  
5. 24 聖霊降臨祭第 3 祝日のためのカンタータ「待ち望まれた喜びの光」(BWV 184) ; コラール「主よ、主の御言葉」。オルガン: J. S. バッハ「主よ、私はかねてより望んでいます、あなたが」(BWV 184 / 5)、安西文子。参加者 10 名。  
5. 31 第 373 回、オルガン: J. G. ヴァルター「おお、主なる神よ、あなたの聖なる御言葉は」、笠間きよ子。参加者 17 名。  
6. 7 第 374 回、三位一体後第 1 主日のためのカンタータ「おお、永遠よ、あなた、雷の言葉よ」II (BWV 20) ; コラール「永遠の時よ」。オルガン: J. G. ヴァルター「おお、永遠よ、あなた、雷の言葉よ」、海東俊恵。参加者 14 名。

## 学習コース

- バッハの森・クワイア (混声合唱) 4.12 / 14 名、4.19 / 11 名、4.26 / 13 名、5.10 / 12 名、5.17 / 16 名、5.24 / 17 名、5.31 / 16 名、6.7 / 16 名、6.14 / 17 名 (ゲネプロ)。  
バッハの森・バロック・アンサンブル 5.17 / 5 名、5.31 / 3 名、6.7 / 3 名。  
バッハの森・ハンドベル・クワイア 4.12 / 3 名、5.3 / 2 名、5.4 / 3 名、5.10 / 3 名、5.24 / 3 名、5.31 / 3 名、6.7 / 3 名、6.14 / 3 名 (ゲネプロ)。  
オルガン音楽研究会 4.11 / 7 名、4.25 / 8 名、5.9 / 6 名、5.23 / 8 名、6.6 / 9 名。  
コラール研究会 4.11 / 6 名、4.25 / 7 名、5.9 / 6 名、5.23 / 6 名、6.6 / 9 名。  
クラヴィコード・オルガン教室 4.11 / 5 名、4.25 / 3 名、5.9 / 3 名、5.23 / 4 名、6.6 / 3 名。  
オルガン・クラブ 4.18 / 2 名、5.16 / 2 名、5.30 / 2 名。  
読書会: 聖書 4.12 / 7 名、4.19 / 6 名、4.26 / 7 名、5.10 / 7 名、5.17 / 7 名、5.24 / 8 名、5.31 / 8 名、6.7 / 8 名。  
オルガン、クラヴィコード、チェンバロ練習 4.1 / 3 名、4.2 / 1 名、4.3 / 3 名、4.4 / 1 名、4.8 / 3 名、4.9 / 2 名、4.10 / 4 名、4.11 / 1 名、4.12 / 1 名、4.15 / 2 名、4.16 / 2 名、4.17 / 3 名、4.18 / 3 名、4.19 / 1 名、4.22 / 3 名、4.23 / 2 名、4.24 / 3 名、4.25 / 1 名、4.26 / 2 名、4.30 / 2 名、5.1 / 2 名、5.2 / 2 名、5.3 / 1 名、5.7 / 2 名、5.8 / 4 名、5.10 / 1 名、5.13 / 4 名、5.15 / 3 名、5.16 / 1 名、5.17 / 1 名、5.20 / 4 名、5.21 / 1 名、5.22 / 4 名、5.23 / 1 名、5.24 / 2 名、5.27 / 4 名、5.28 / 1 名、5.29 / 2 名、5.30 / 3 名、5.31 / 1 名、6.3 / 3 名、6.4 / 3 名、6.5 / 2 名、6.6 / 2 名、6.7 / 2 名、6.10 / 1 名、6.11 / 1 名、6.12 / 3 名、6.13 / 2 名、6.14 / 1 名、6.17 / 3 名、6.19 / 3 名、6.20 / 2 名、6.24 / 1 名、6.25 / 1 名、6.26 / 3 名、6.27 / 3 名、7.1 / 2 名、7.2 / 1 名、7.3 / 3 名、7.4 / 3 名、7.8 / 2 名、7.9 / 1 名、7.10 / 2 名。